

---

---

## 福田弥夫教授、勝股秀通教授、木下誠也教授 退職記念号の発刊にあたって

---

---

日本大学危機管理学部 学部長 福田 充

コロナ禍を乗り越えて、この日本大学三軒茶屋キャンパスが全面的に対面授業に復帰して2年目、この令和5年度にも世界では各地に大変な惨禍がもたらされました。ロシア・ウクライナ戦争は2年目に突入し、3年目を迎えようとしています。パレスチナではイスラエル軍とハマスの戦闘が激化し、東アジアの安全保障情勢も緊張しています。トルコ・シリア大地震のあとも、モロッコやアフガニスタンで大地震が発生し、ハワイマウイ島では大規模な山火事で多くの被害が発生しました。日本国内でも、令和6年の元日から能登半島地震が北陸地方を襲い、甚大な被害をもたらしました。それは同時に、危機管理学部での研究教育が社会から大いに求められた一年でもありました。

このような令和5年度も危機管理学部には期待に胸を膨らませた8期生が入学し、また大学院危機管理学研究科が開設され、1期生となる大学院生が修士課程に入学しました。そしてこの春には危機管理学部にとっての5期生がそれぞれの進路で社会に巣立っていきます。この令和5年度をもって、福田弥夫教授、勝股秀通教授、木下誠也教授をお送りすることとなりました。

福田弥夫教授は、学部開設当初から学部長としてこの危機管理学部の開設にご尽力され、2期7年間にわたり、学部長として本学部を支えてこられました。その間にはアメフト部タックル問題以後数多くの大学の問題に直面されながら、またコロナ禍におけるオンライン授業への切り替えなど、本学部の運営を舵取りされ、学部発展に大きく貢献されました。

日本大学大学院法学研究科博士後期課程を経て、八戸大学教授、武蔵野女子大学教授、日本大学法学部教授などを歴任され、危機管理学部教授、学部長に就任されました。日本保険学会理事長をはじめ、各種学会でご活躍され、政府官庁での自賠責保険等での委員会での委員も歴任され、社会貢献されています。こうした研究、社会貢献活動を本学部での教育に活かされました。

勝股秀通教授は、国民保護や安全保障を専門分野とされ、学部開設当初からジャーナリズムや企業広報まで幅広い科目を担当され、教育にあたってくださいました。勝股先生は、読売新聞記者を務めながら、防衛大学校総合安全保障研究科で修士号を取得されました。読売新聞編集局解説部長兼論説委員兼編集委員、読売新聞調査研究本部主任研究員を歴任され、危機管理学部教授に就任されました。主著に、『自衛隊、動く』（ウエッジ社）、『検証危機の25年』（並木書房）等数多くの安全保障に関する著書、論文があります。こうした実務経験と研究活動を、本学部における教育研究活動に十分に活かしていただきました。

木下誠也教授は、自然災害論や地域防災論など主に災害マネジメント領域の科目を担当され、災害対策について幅広く教育に尽力されました。木下先生は、東京大学大学院修士課程修了後に建設省に入省され、国土交通省総合政策局国際建設課長、中部地方整備局企画部長、近畿地方整備局長などを歴任されました。その後、愛媛大学防災情報研究センター教授、本学生産工学部教授をへて危機管理学部教授に就任されました。代表的な著書に『自然災害の発生と法制度』、『地域防災とライフライン防護』（ともにコロナ社）があります。これらの実務家経験が本学部での教育活動に活かされました。

この先生方には本学部の教授として、これまで教育研究、学部運営などの面で多大なご尽力を賜りました。その貢献に感謝の意を表し、危機管理学研究第8号を、福田弥夫教授、勝股秀通教授、木下誠也教授の退職記念号として発刊いたします。心より感謝を申し上げます。

## 福田弥夫教授の略歴と最近の研究業績



### 1. 略 歴

昭和33年青森県八戸市生まれ 昭和52年3月青森県立八戸高校卒業 昭和56年3月日本大学法学部法律学科法職課程卒業 昭和58年3月日本大学大学院法学研究科博士前期課程修了 昭和62年3月日本大学大学院法学研究科博士後期課程満期退学 平成17年9月筑波大学より博士（法学）の学位を授与される

昭和62年4月八戸大学商学部専任講師 同校助教授 教授を経て 平成11年4月武蔵野女子大学現代社会学部教授 平成17年4月日本大学法学部教授 平成22年10月～平成28年3月日本大学通信教育部長、平成28年4月日本大学危機管理学部教授 平成7年1月～平成7年3月サンフランシスコ大学ロースクール客員教授

平成11年2月～平成17年3月運輸省・国土交通省「今後の自賠責保険の在り方に係る懇談会」委員、平成17年9月～平成28年1月金融庁「自動車損害賠償責任保険審議会」委員、平成22年6月自動車損害賠償保障制度を考える会座長、平成24年4月～平成26年3月文部科学省大学設置分科会専門委員会委員、平成26年10月～平成30年10月日本保険学会理事長、平成28年5月～令和4年6月日本大学理事、平成30年10月～令和5年9月国際保険法学会理事、令和5年12月（一財）自賠責保険・共済紛争処理機構理事長

### 2. 最近の研究業績

「自賠責保険と交通事故被害者の救済—令和4年改正と新たな賦課金導入を中心に—」（交通事故賠償における補償・救済システムの現状と課題所収、保険毎日新聞社、令和5年12月）、「自動運転とノーフォルト保険の現状と課題」日交研シリーズA-744（日本交通政策研究会、令和4年12月）、「自動運転技術の進展に伴う共済事業への影響—損害賠償責任にかかる主な論点と課題を中心として—」共済と保険2019年9月号（日本共済協会、令和元年9月）、「フラタernal保険の現代的意義—最近の状況を中心に—」明大商学論叢101巻2号（明治大学商学研究所、平成31年2月）

### 3. 賞

令和6年1月11日 第65回交通文化賞受賞（国土交通大臣）

## 勝股秀通教授の略歴と最近の研究業績



### 1. 略 歴

- 1982年 3 月 青山学院大学経営学部卒業（経営学士）
- 1983年 4 月 読売新聞東京本社 入社  
以降、北海道支社などを経て、編集局社会部（東京地検特捜部・警視庁・防衛庁  
など担当）93年 3 月から社会部主任（防衛問題担当）
- 1999年 3 月 防衛大学校総合安全保障研究科（民間人1期）修了（修士・社会学）
- 2010年 6 月 読売新聞編集局解説部長兼論説委員兼編集委員
- 2012年 9 月 読売新聞調査研究本部主任研究員
- 2015年 3 月 読売新聞東京本社 退社
- 2016年 4 月 日本大学危機管理学部 教授

### 2. 最近の研究実績

#### (1) 書 籍（単著）

- 『自衛隊、動く』ウエッジ社 2014年 5 月
- 『検証 危機の25年』並木書房 2017年 2 月

#### (2) 論文等

- 「危機管理広報のあるべき姿」『危機管理学研究』第 4 号 2020年 3 月
- 「コロナウイルスによる死をメディアはどう伝えるのか」『同』第 5 号 2021年 3 月
- 「コロナで露見した内向きの日本社会ー検証2021年夏」『同』第 6 号 2022年 3 月
- 連載「国防の盲点」全46回 『Wedge』2017年 4 月～2021年 3 月 ウエッジ社
- 「ミサイル防衛 過去・現在・未来を考える」『TARON』2023年 1 月 国政情報C
- 「日本版予備役制度の創設検討を」『Wedge』2023年 9 月 ウエッジ社
- 「危機の時代における海上自衛隊の将来像」『世界の艦船』2024年 1 月 海人社

## 木下誠也教授の略歴と最近の研究業績



### 1. 略 歴

- 1976年 3 月 東京大学工学部土木工学科卒業、1978年 3 月同大学院修士課程修了
- 1978年 4 月 建設省入省、九州・中部・近畿地方建設局、静岡県、河川局、大臣官房等を経て、建設省建設経済局国際課長、国土交通省総合政策局国際建設課長、土地・水資源局水資源部水資源計画課長、中部地方整備局企画部長、関東運輸局次長、内閣府沖縄総合事務局次長
- 2008年 7 月 近畿地方整備局長
- 2009年 7 月 国土交通省退職後、愛媛大学防災情報研究センター教授在任中
- 2011年10月 東京大学 博士（工学）
- 2014年 4 月 日本大学生産工学部土木工学科を経て、2016年 4 月 危機管理学部教授

### 2. 最近の研究実績

#### (1) 書 籍

- 『公共調達解体新書』一般財団法人経済調査会、2017年
- 『自然災害の発生と法制度』コロナ社、2018年
- 『地域防災とライフライン防護』コロナ社、2018年
- 『改訂 公共工事における契約変更の実際』一般財団法人経済調査会、2022年 ほか

#### (2) 論文等

- 「公共工事発注機関のマネジメント力確保策に関する一考察（共同）」『土木学会論文集F4（建設マネジメント）』75巻 4 号、2019年
- 「激化する災害への備え」『危機管理学研究』第 4 号、2020年
- 「建設分野における低炭素公共調達に係る先導国の施策を踏まえた我が国に必要な施策の検討（共同）」『土木学会論文集F4（建設マネジメント）』78巻 2 号、2023年 ほか